



6G-B7 12G-B7

水平偏向増幅用ビーム管

6G-B7 は、比較的低い供給電圧で大きな偏向出力が得られるビーム管であります。

特に我が国のように配電々圧の低い場合に110度偏向用ブラン管を使用したトランスレス受像機の水平出力管として、従来の12G-B3ではプレート許容損失の制約から十分な偏向出力が得られなかったが6G-B7はプレート許容損失が大であるので110度偏向トランスレス受像機の水平偏向を十分に満足できます。

カソード 傍熱型	6G-B7	12G-B7
ヒータ変圧	6.3	12.6V
ヒータ電流	1.2	0.6A
ヒータ・ウォームアップ・タイム		約11秒

外形 38-04

電極間静電容量

入力側	約17.5pF
出力側	約7.7pF
グリッドとプレート間	最大1.4pF

特性

プレート電圧	40	100V
スクリーン電圧	100	100V
グリッド電圧	0	-7.7V
プレート電流	約240 Δ	100mA
スクリーン電流	約19 Δ	7mA
相互コンダクタンス		14000μU
内部抵抗		5.3kΩ
第1グリッドと第2グリッド間増幅率		6

水平偏向増幅*

最大定格

直流プレート電圧	最大	700V
正パルス尖頭プレート電圧**	絶対最大	7000V
負パルス尖頭プレート電圧**	最大	1500V
直流スクリーン電圧	最大	250V
負パルス尖頭グリッド電圧	最大	1000V
プレート損失	最大	15W

スクリーン損失.....	最大	5W
プレート損失+スクリーン損失.....	最大	18W
カソード電流.....	最大	200mA
グリッド抵抗.....	最大	1MΩ

ヒータカソード電圧

ヒータがカソードに対して負荷電位.....最大 250V

ヒータがカソードに対して正電位.....最大 250V□

* 走査線数 525 本フレーム数 30 の標準方式で動作させた時の最大定格を示す。

**パルス電圧の持続期間は水平走査期間の 15% を越えないこと。

□直流分は 100V を越えてはならない。

△この特性を測定するときは、プレート損失と、スクリーン入力を規格内に保ち、且つ測定法に留意しないと真空管が劣化するから注意すること。

